

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

<p>国語A (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと やや課題の残る結果でした。</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果でした。</p> <p>③読むこと 概ね良好な結果でした。</p> <p>④言語事項 概ね良好な結果でした。</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果でした。</p> <p>②短答式 概ね良好な結果でした。</p> <p>③記述式 出題なし</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果でした。</p> <p>(その他)</p> <p>学校の特徴的なことについて記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと正答率の高かった設問 9三イ適切な語句を選択する(厳しい挑戦だということは、<u>もちろん</u>分かっています) ・もともと正答率の低かった設問 9—2漢字を書く(今までにない<u>ドクソウ</u>的な考えだ) ・もともと無解答率の高かった設問 9—2 同上 	<p>国語B (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 出題なし。</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果でした。</p> <p>③読むこと 概ね良好な結果でした。</p> <p>④言語事項 出題なし。</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 課題が残る結果でした。</p> <p>②短答式 概ね良好な結果でした。</p> <p>③記述式 概ね良好な結果でした。</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果でした。</p> <p>(その他)</p> <p>学校の特徴的なことについて記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと正答率の高かった設問 1二(読むこと):関連イベントの「～職人の技を見よう～」に参加することができる日付として適切なものを選択する ・もともと正答率の低かった設問 3三(書くこと・読むこと):図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く。 もともと無解答率の高かった設問 3三 同上
--	--

分析

かねてより【書く】ことに課題があるとされてきたが、全国平均と大きく差が開き、国語 A の【話す・聞く】の正答率が低かったことも看過できません。国語 A で、正答率に全国平均と大きな差がみられた【話す・聞く】問題は3問あり、それぞれ

「スピーチ原稿の内容から、話者がどのように聞き手を想定して話しているのかを選択する」、

「会話の展開から、ある人物が相手の発言をどのように考えながら聞いているのかを選択する」、

「話し合いをみて、その内容を踏まえて自分の考えを広げた会話者の次の発言を選択する」

という内容で、スピーチや会話などをもとに出題されたものですが、本校生徒はこうした出題には不慣れであったと考えられ、定期テスト等においても、【話す・聞く】をペーパーテストの中で評価することも視野に入れるべきだと考えます。

しかし、苦手であると考えられている【書く】問題については、無解答率は全国平均より低く、答案を書くことへの積極性がみられました。

数学A

(領域ごと)

①数と式

概ね良好な結果でした。

②図形

やや課題が残る結果でした。

③関数

やや課題が残る結果でした。

④資料の活用

課題が残る結果でした。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果でした。

②短答式

やや課題が残る結果でした。

③記述式

出題なし

(無解答率)

概ね良好な結果でした。

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

・もっとも正答率の高かった設問

1(3)(数と式): $-3+(-7)$ を計算する。

・もっとも正答率の低かった設問

9(3)(関数): 反比例を表した事象を選ぶ

・もっとも無解答率の高かった設問

10(2)(関数): 一次関数の式から変化の割合を求める

数学B

(領域ごと)

①数と式

概ね良好な結果でした。

②図形

概ね良好な結果でした。

③関数

概ね良好な結果でした。

④資料の活用

やや課題の残る結果でした。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果でした。

②短答式

概ね良好な結果でした。

③記述式

概ね良好な結果でした。

(無解答率)

概ね良好な結果でした。

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

・もっとも正答率の高かった設問

1(1)(数と式): 1試合の時間を16分とするとき、1回の休憩の時間を求める

・もっとも正答率の低かった設問

6(2)(数と式): 文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する

・もっとも無解答率の高かった設問

6(2)同上

分析

2つのテストで共通して言えることは、関数の分野での平均が低いことです。これは授業を行っていて感じるのですが、関数の分野に対する苦手意識がとても強いです。1年では比例・反比例、2年では1次関数、3年では2乗に比例する関数、大きくこの3つの単元を3年間、そして高等学校その先を見越して、系統的に学習していくことが必要になります。また、問題の問い方については独特のものもありました。例えば“グラフを選びなさい”という選択問題においては、よくある問題としては座標に直線が描かれていて、あてはまるグラフを選ぶというのですが、今回の問題では座標に点が線を描くようにうってありそれを選択させるというものでした。 x, y は整数以外の数もあてはまることや直線は点の集まりであるということを本当に理解していないと、答えられないような問題でした。基礎・基本的な知識をつなげていくということが必要となってきます。

各設問を見ていくと、計算問題については大阪府の平均と比べても遜色ありません。しかし、連立方程式での代入法を使う問題に関しては、平均を大きく下回っています。普段の様子から加減法ならばもう少し正答率上がったのではないかと考えられます。問題に対してさまざまな方法で取り組んでいくことがまだまだ足りていません。しかし、全体を通して無解答率なども含めてみると、学習への意欲や姿勢が向上してきており、一定の基礎・基本が定着しつつあるということが考えられます。実際に授業を行っていてもアンケート結果を見ても、授業を意欲的に取り組んでいる生徒が本当に多く、その意欲を削がないよう、そしてより質の高い授業を展開していきたいと思えます。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平成 19 年から、9 回の全国学力調査をしていますが、ここ数年、改善の傾向が見られます。

全体を通して全国平均より正答率は低い結果となりましたが、全教科昨年度に続き、改善されました。

国語では、発展的な思考・記述が求められる B 問題が大阪府平均を越えました。

数学においても、発展的な思考・記述を求める B 問題が大きく改善されました。

学力高位層と学力低位層についての分析

学力高位層（80～100%）は、例年並みで、全国平均よりもかなり少ないです。

学力中位層（40%～80%）は、例年より多く、全国平均よりも多かったです。

学力低位層（0～40%）は、例年より大きく減少しましたが、全国平均よりも多かったです。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

○小学校から中学校への授業がスムーズに入れるようにするために、平成 25 年度から授業での共通実践項目（授業環境を整える目的とした 4 項目と授業内容をわかりやすくするための工夫の 4 項目）を実践し、さらに、話し合いがうまくできるようするために、小中で共通の話し合いのルールをつくって実践しています。

○教員の指導力を高めるために、年 3 回の授業力向上研修会を持っています。平成 27 年度の先進校視察よりヒントを得、協同学習に注目し、研究授業とグループ討議を行っています。

○平成 27 年度から、校区全体で言語活動に力を入れ、「だれでもできること」をテーマに、全校共通の徹底事項を設定しました。本校では、「書く力」に特化し、新聞記事の視写や普段の授業で取り組めることなどを実践していきます。また、読む力をつけ、さらに将来への展望を持たせるために、読書は有効な手段であるので、毎朝 10 分間の「朝の読書タイム」を実施しています。

○以前（今より 7 年前）の全国学力調査の結果で、家庭学習を全くしない者の割合がかなり高く（全体の 20% 弱）、家庭学習を定着するねらいで、「自主学ノート」を毎朝提出させています。今年度より全学年に「ぷらすノート」（連絡帳）を配布し、忘れもの防止、そして家庭学習へつなげる仕掛けをしています。

○さらに、学力の定着をはかるために、各教科とも宿題の増加を図っています。

○この 3 年間生徒のやる気を引き出すことを目的に、校内で年 3 回の漢字検定と英語検定を実施しています。

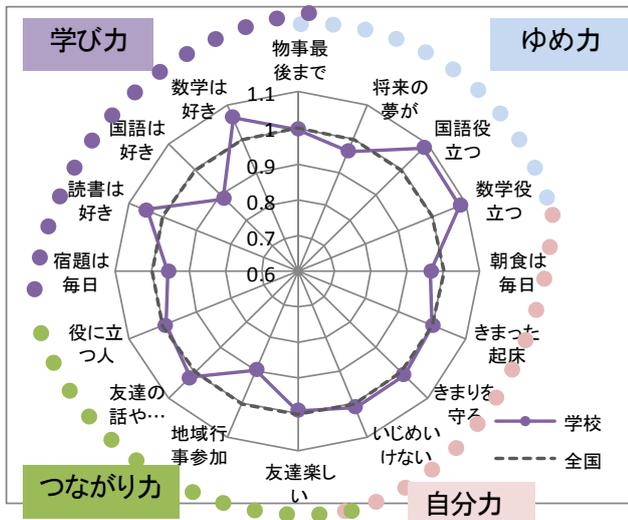
○昨年度より、大学生のボランティアを活用して、放課後に「ぷらすタイム」という学習会を実施しています。各学年ごと、週に一・二度のペースで開催しています。

○3 年前から、茨木っ子学習教室を、耳原公民館と福井公民館で夕方に開いています。どちらの取り組みも、生徒にアンケート調査をし、希望者を募って実施しています。さらに、定期テスト前には、どの学年も学習会を実施しています。

○校区全体での家庭学習の雰囲気作りを目指して、中学校の定期テストの 1 週間前の期間に合わせて、小学校でも家庭学習を促進し、各校で「家庭学習強化週間」ののびりを立て、推進活動を行っています。

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



分析

- ゆめ力について・・・「国語・数学が将来役に立つと思う」は例年通り、全国平均をかなり大きく上回りました。また、「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」という項目が大きく改善され、全国平均を上回りました。「将来の夢がある」という項目は全国平均を下回りました。
- 自分力について・・・「いじめはいけない」では、例年よりも向上し、全国平均を大きく上回りました。「学校の規則を守っていますか」もここ数年の改善の傾向もあり、全国平均を上回りました。一方、「毎日同じ時刻に起きている」は全国平均より低く、起床時間に課題が見られます。
- つながり力について・・・「地域行事に参加」の項目は、全国平均よりも低いですが、都会の生徒に特有な現象で、大阪府でも同じ現象となっています。そして、「友だちと会うのが楽しい」という項目はここ数年改善傾向にあり、今年度も向上されました。
- 学び力について・・・「国語は好き」には大きな課題が見られますが、「数学・読書は好き」は全国を大きく上回りました。「宿題を毎日している」の項目は依然課題が残っています。

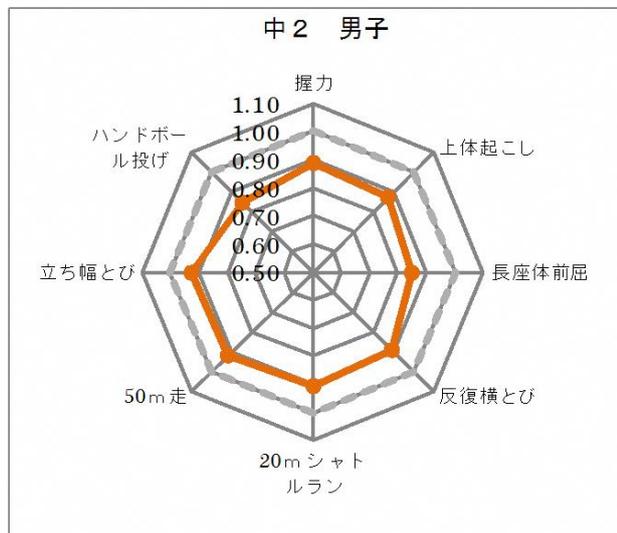
取り組み

- ゆめ力を高めるために・・・キャリア教育や進路指導教育を中学3年間で計画的に進めています。キャンペーン集会での生徒会活動や学校通信・学年通信・進路通信・学力向上通信・学級通信を通して、子どもたちの意識向上につとめています。
- 自分力を高めるために・・・中学3年間でも、最終学年である3年生の 때가、学校生活全般で一番充実するよう日々指導に当たっています。特に行事では、体育祭での集団行動や合唱祭でのミュージカルなど、難しいことに生徒たち自身の力で挑戦させています。
いじめについては、日々の学活や生活の中で指導し、キャンペーン集会でもいじめ撲滅をめざして、子どもたちの心に迫る取り組みをしています。
- つながり力を高めるために・・・班活動に重きを置いています。班長会議や合同班長会議など班を中心に一人一人のつながりを持たせるようにしています。生徒会の委員会活動を定期的に全学年同時に開き、リーダー層の育成と学年を超えたつながりを持たせています。また、授業でも協同学習を通して、つながる仕掛けをつくっています。
- 学び力について・・・学ぶ意欲を持たせるために、自主学ノートを活用し、朝の読書タイムを行っています。年3回の漢字検定や英語検定を実施しています。宿題などの課題も定期的に出し、観点別評価の関心・意欲として評価をしています。授業での小中共通実践項目や話し合いのルールを作り、学習環境を整えています。

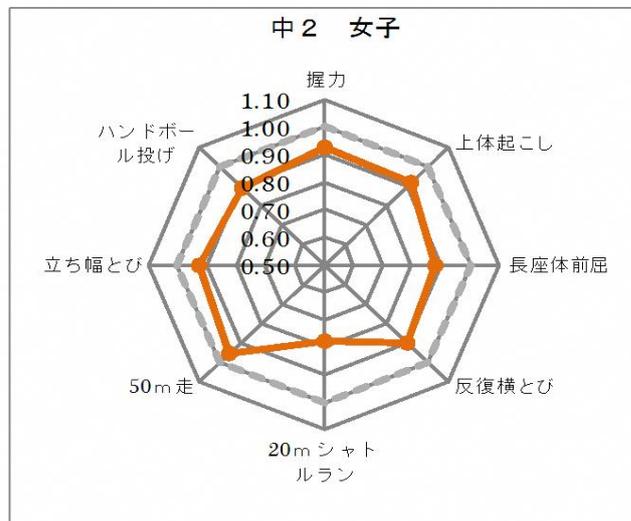
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (中2)



女子 (中2)



分析

男女とも、全国平均を下回る結果となっています。特に、男子ではハンドボール投げ、女子では20mシャトルランにおいて大きく下回っています。

ただ、全8項目中、男子は握力、上体起こし、反復横とび、20mシャトルラン、女子は上体起こし、反復横とび、50m走で、前年度の記録を更新しています。

毎日の体育の授業において、走る基本となる補強運動にしっかり取り組んでいるので、大きく改善されたと考えられます。また、測定時に各項目の全国平均を提示し目標を定めることによって、目標を持って取り組むことができました。

長座体前屈の結果に見られるように、身体の柔軟性には課題が残る結果となりました。毎日の積み重ねで比較的变化が出やすい項目なので、普段の授業や部活動において意識していく必要があると考えられます。

取り組み

体力測定を真剣に取り組ませ、自分たちの体力が中学3年間でどれだけ向上できるか一人一人目標を持たせています。

体育の授業では、基礎体力を向上させる取り組み（筋トレ、体操など）をしっかりと行っています。

さらに体育の時間の見学者を出さないように学校・学年全体で取り組んでいます。

放課後の部活動の中で、基礎体力と柔軟性が向上するように、研修会を持ち、職員一人一人の意識の向上をはかり、それに伴い、生徒にもできるだけ部活動に入部するよう呼びかけています。

かつて体力は、子どもたちの「遊び」の中で向上してきた側面があったことに注目し、サッカーボールとバレーボールの貸出を実施し、昼休みにグラウンドで体を動かすことを推奨しています。

昨年度から、早朝練習を実施する部活動が増え、休日も含めて部活動がより活動的になってきました。体育の授業を軸にし、学力とともに、体力向上に励んでいきたいと思っております。

2

3年間の計画

	(各校)	(各校)	(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	自ら学び、自分の課題に対して意欲的に努力する生徒を育てる	自分の体力向上に意識して取り組める生徒を育てる	目標に向かって最後まで努力できる生徒を育てる
平成26年度	<p><実態調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査と生活実態調査(4月)の分析と課題を克服するための研修会の実施 ・全学年生活実態調査(2学期末)の実施 ・1・2年チャレンジテスト(1月)の実施 ・数学の計算でのつまづきの把握(1・2年) <p><授業改革></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のやる気を引き出すための授業研究 ・年3回授業力向上研修会の実施 <p><学力向上のために取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書タイムと自主学ノートの実施 ・年3回の漢字検定と英語検定の実施 ・放課後の補習(大学生のボランティア)の実施と校外での茨木っ子学習教室の開催 <p><連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する共通実践項目の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力測定の正確な実施 ・体育の授業で基礎体力の向上 ・部活動の指導者の研修会(具体的にどのようにすれば生徒の基礎体力や調整力が向上するか研修) ・遊びの中で基礎体力をつける取り組みの検討(次年度以降) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携担当・学力担当者会(月に1回程度) ・夏季研修会(集団づくり,班編成の交流) ・授業で共通実践項目を実施 ・旧小6担任の中学1年の授業参観と交流(1学期) ・中学3年教師が各小学校の6年の授業参観(1学期) ・英語教育推進担当者会議 ・出前授業・参観 ・合同授業研修(道徳)3学期 ・各学校での5つの力の分析報告
平成27年度	<p>平成26年度の取り組みの継承と深化</p> <p><授業改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のやる気をさらに引き出し、学力向上につなげるための授業力向上研修 <p><学力向上の取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・補習のさらなる充実 ・わからない生徒を減らす取り組みの強化 ・授業力向上に関する通信作成・配布 ・全校あげて、書く力と表現する力を高めるための取り組みの実践 ・朝の読書タイムの有効的な活用 <p><連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つの力の向上をめざし、校内のそれぞれの委員会で具体的対策の考案と実践 	<p>平成26年度の取り組みの継承と深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が目標を持ち、意欲的に取り組む体力測定の実践 ・体育や部活動で意識して体力向上や調整力を高める取り組みの実践 ・昼休みに、遊びを取り入れた体力向上の具体的な取り組みの実施 	<p>平成26年度の取り組みの継承と深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つの力の課題を克服する取り組みと成果の中間報告(共通する委員会で検討) ・1年間のなかで、旧小6担当と中学3年担当による引継ぎ強化(年に複数回の授業参観、情報交換会を実施) ・2学期末に5つの力についてアンケート調査 ・小中連携通信の発行 ・校区内あいさつ運動 ・言語活動の向上取り組み
平成28年度	<p>平成27年度の取り組みの継承と深化</p> <p><学力向上の取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからない生徒を減らす手立ての実践 ・書く力と表現力をさらに高める取り組みの実践 <p><連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つの力についてさらなる成果が出せる取り組みの深化 ・3ヶ年の成果の分析と課題の把握をし、新たな学力向上のステップアップ計画の作成 	<p>平成27年度の取り組みの継承と深化</p> <p>3ヶ年の体力向上の成果の分析と課題の把握をし、新たな体力向上のステップアッププラン計画の作成</p>	<p>平成26年度以降の取り組みの継承とさらなる深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5つの力の課題克服に向けて取り組んだ成果の交流 ・3ヶ年のジャンプアッププランの総括と新たなプランの構築

